

# STOP! たばこ

子どもの健康を守る



<上>

学校も完全禁煙になるだろうとあらかじめ心の準備をして「おい」。毎日一箱吸っていたたばこ本。仕事中は吸わず、自宅で本数を二、三年前から徐々に減らし現在は一日五本以内。朝食後に一服し、通勤途中の車内で午前中最後の一本。夕食後に一、二本。健康のためには完全に禁煙するのがベストだが「食後の一服でホッと」と坂口校長。

鳥取市内の小中学校は、三年前から全面禁煙にした。昔の職員室は、入った途端にたばこのにおいが漂うことも珍しくなかったが、そんな風景も今では全くない。

三十一日は世界禁煙デー。六月六日まで禁煙週間となり、「子どもをたばこの害から守るため」をテーマにさまざまな啓発活動が実施される。たばこの害を紹介しながら、禁煙運動に取り組む人たちが教育現場の現状を紹介する。

鳥取県内では四月一日から県立学校が敷地内全面禁煙となった。小中学校でも多くの

## 教育現場

学校がすでに敷地内禁煙を実施。子どもに禁煙を指導する立場の先生も、たばこを控えるなど配慮している。

鳥取県教委の調べでは、県立学校教職員の喫煙率は▽二〇〇四年度19・7%▽〇五年度20・8%▽〇六年度18%で、約二割が喫煙している。

県教委は昨年まで、四月の敷地内全面禁煙に向けて、教職員を対象に禁煙セミナーの開催やニコチンパッドの配布、広報誌を通じた禁煙の勧めなどを実施した。

鳥取東高の坂口祐二校長は「健康増進法の施行で公共施設での禁煙化が進み、いずれ



「学校敷地内禁煙」のポスターが張られた校舎の出入り口。鳥取市湖山町南3丁目、鳥取緑風高校

## 喫煙の先生 子どもの目意識

「吸うために場所を移動するのにかかるので、時間的な余裕がないときは吸わない。全面禁止になる前と比べれば、喫煙量は半分ぐらいになった。家庭では子どもと一緒に吸わないようにしている。将来はやめるかもしれない」

ある中学校長は「県立学校の全面禁煙はむしろ遅かった。学校も喫煙に対して神経質になっている。昔に比べれば先生の喫煙者も減り、一般の人より少ないだろう。いずれゼロに近くなるのでは」とみている。

# におい消えた職員室